

騒音性難聴

朝霞地区医師会 ひだだし 飛田 正

☎048 464 4666

騒音性難聴とは大きな音を聞いたことにより起こる難聴で、大きく分けて仕事などでうるさい場所に長年いたときに生じる慢性的な職業性難聴と、爆発音など突然大きな音に接した場合に生じる急性的な音響性外傷とがあります。

職業性難聴

鉄工所や工事現場での勤務、あるいは電話交換手など長年音のする環境下で働いていた人に多く見られ、勤続年数の増加とともに進行していきます。仕事ではなくとも、日常的にパチンコ店内での騒音や旧式エアコンの使用音などに接していたり、ヘッドホンで音楽を一日中聞き続けるなどの習慣でも同様の状態が起こります。難聴は内耳（音を聞く神経）がさらさられている騒音の高低にかかわらず、普段の会話では使用しないような4000Hzという高い音域から障害が進行していく特徴があるため、当初は症状があっても耳鳴り程度を自覚するのみで聴力の悪化に気づきません。何年間もかけて会話領域と呼ばれる周波数帯域（1000Hz付近）まで聴力障害が及ぶようになります。難聴は左右対称性が多く、騒音の環境歴の有無が診断基準となります。

早期発見が困難なため難聴は固定されやすく、ほとんどの例は回復不可能です。そのためこの難聴が生じないように、また進行しないようにするために予防が第一です。予防には生活環境での騒音の把握・整備とともに自衛策としての耳栓の使用がかなり効果的とされています。労働安全衛生法による職場での年一回の定期健康診断には難聴発見のための項目が設けられており、難聴検査の際には日常会話でよく使用する中音域（1000Hz）と職業性難聴で悪くなりやすい高音域（4000Hz）の聴力をチェックします。よって、健診で聴力の異常が指摘されたら、普段の会話に何ら不自由はしなくても、専門医に相談すべきです。

音響性外傷

ロックコンサートやスピーカーの故障音、運動会のピストル音などの大音響を突然そばで聞かされた直後から難聴や耳鳴り、耳がつまりる症状が主に片耳に起こる状態です。またフラつきなどの軽いめまい感を伴う場合もあります。内耳の脳震盪のようなもので、一回の大音響で症状が完成するのが特徴です。強い衝撃のため障害域は全周波数にわたることも多く、片耳の異常感から比較的早期に受診されることが多いため治療により改善が望めます。しかし、この場合でも反対の耳が良いからとりあえず様子をみようとする躊躇し、受診までの期間が長びくと難聴が固定されてしまうことがあるため注意が必要です。

難聴の治療は、いずれの場合も神経の修復を助けるホルモン剤、ビタミン剤、循環改善剤などを使用しますが、心身の安静も神経の修復には必要です。耳の神経は疲れやすストレスなど心身ともに不調なときに悪化しやすい傾向があり、日ごろより規則正しい生活を心がけることは耳のためにも必要なことです。

最後にご自身の聞こえの程度を知ることは重要なことです。加齢による老人性難聴も長年の音刺激による一種の慢性疲労であるといわれ（ちなみにアフリカの地方の人たちの聴力は老人でもほとんど低下が認められないといえます）、職業性難聴と同様に高い音域より進行していきます。日常生活で高音域の音を聞く機会は意外に多く、難聴のため自転車のベル音に気づかず衝突してしまったり、やかんの沸騰音に気づかず火事を起こしてしまったり、など無自覚ゆえのトラブルに遭遇するケースも時折見受けられます。ご自身で何か聞こえに心当たりがあったり、またご家族など周囲の人にご指摘を受けたことがあれば一度専門医に相談し、自身の聞こえの程度を把握されることをお勧めします。



当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10:00～午後4:00

月日	場所	診療所名	科目	☎ (048)	場所	診療所名	科目	☎ (048)	
3	朝霞	小坂小児科	小	461 7868	新座	清水医院	内・外・循・皮	476 2111	
	10	新座	わかばクリニック	内・アレ・循・小	489 5323	志木	田口皮膚科医院	皮	473 8889
2	11	朝霞	三浦医院	内・小・皮	461 3802	新座	丸山整形外科医院	整・皮	478 2945
	17	新座	高橋医院	内・小	478 2689	朝霞	眼科谷合医院	眼	462 2355
	24	新座	たきやま小児クリニック	小・アレ	477 8620	朝霞	栗原整形外科	外・整・皮・内・リウ	463 2325

2月の休日歯科応急診療所

実施日 2 / 3(日)・10(日)・11(月)・17(日)・24(日)
 受付時間 午前9時～11時30分
 場所 新座市休日歯科応急診療所（新座市保健センター）
 診察料 健康保険法の規定料金（保険証を必ずお持ちください）
 問い合わせ ☎048 481 2211

救急医療のお問い合わせ

埼玉県救急医療情報センター
 ☎048 824 4199
 埼玉県南西部消防本部
 ☎048 460 0123
 小児救急電話相談
 #8000（携帯電話からも相談可能）